

## 高齢ドライバーの交通事故が後を絶たない



- ・高齢ドライバーの誤操作による事故が増加
- ・地方では特に深刻
- どこでも起こりうる喫緊の課題！

県内の高齢者人身事故率

H27 ▷ R4

19.4% 23.2% ↗

高齢者による事故	1,331件	644件
県内事故	6,845件	2,777件

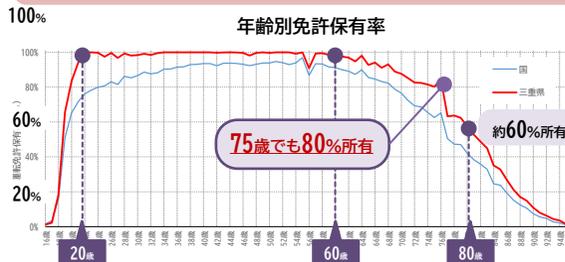
R7.5.19

74歳 小学生4人負傷  
※ハンドル誤操作により小学生の列に突進

R7.4.3

92歳 女性客2人負傷  
※バック運転誤操作による店舗突入

## 地方の高齢者の生活に車は欠かせない



75歳以上免許返納件数

年間約0.5万件どまり

県内免許保有数  
12.9万人 (R4)

高齢者の切実な声 (県内の地域座談会にて)

- ・バス停までの距離が遠く、ドアtoドアの輸送がありがたい。
- ・買い物などでは、荷物があるため、自宅までの送迎が必要。
- ・隣町の総合病院に定期的に通院するためには車が欠かせない。

→自家用車にかわる高齢者の日常の移動手段の確保が必要

地方で、バス減便や運転士不足が深刻化するなか、一般ドライバーを活用した市町主体による公共ライドシェアが有効な手立てに！

## ○公共ライドシェアとは・・・

交通空白地において市町等が一般ドライバーを活用して提供する有償の旅客運送

### 事業者協力型の導入事例(三重県紀北町)

町内のタクシー事業者の撤退を機に、町が主体で有償運送を実施。運行管理業務を交通事業者へ委託。



### タクシーとの共同運営 New!

タクシーが優先的に配車、公共ライドシェアがタクシーを補完 (富山県南砺市が全国初実装)



## 課題

公共ライドシェアの導入は全29市町のうち9市町のみ

## 公共ライドシェアがなぜ進まないのか

市町で導入が進まない要因は・・・

1 交通事業者との調整が難しい

2 準備から本格運行に至るまでの予算確保やノウハウの蓄積が難しい

## 地方の交通事業者の声



- ・公共ライドシェアに顧客を奪われ、**営業妨害・民業圧迫**ではないか
- ・人口減・需要減のなか、タクシーの運行を頑張っているのに、「交通空白」と整理されることに不満

→市町(住民)とタクシー事業者がWin-Winとなっていない

## 公共ライドシェアをさらに広げるための国への要望

### 新たな公共ライドシェアの制度の浸透

・タクシーとの共同運営など、自治体と交通事業者がWin-Winとなるモデルの構築・普及に向けて、**自治体、交通事業者および一般利用者に対する公共ライドシェアの周知の強化**と交通事業者と連携した取組に対する**地方に寄り添った支援・補助**を求める。

### 複数年にわたる事業に対する予算の確保

・公共ライドシェアの導入にあたり、調査、実証、分析・検証・改善など複数年にわたって取り組めるよう、補助事業(「交通空白」解消緊急対策事業)の**継続的な予算措置**を求める。